

研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修 漆の保存と修復（修 14）	修復技術部	99
博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（保 06）	保存科学部	100
連携大学院教育（共）	保存科学部	102
博物館学実習（美 15）	美術部	103
博物館・美術館等の館内環境調査と援助・助言（保 13）	保存科学部	104
文化財の材質構造に関する調査・助言（保）	保存科学部	106
文化財の保存修復及び整備に関する調査・助言（修）	修復技術部	106
無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言（芸）	芸能部	108
文化財の虫害等に対する調査（保）	保存科学部	109
龍門石窟研究院研究員の受け入れ（セ）	国際文化財保存修復 協力センター	109

国際研修 漆の保存と修復 (修 14-05-3/3)

目 的

海外で所蔵されている漆器類は、日本と違った気象条件で長期間保存されてきたために、乾燥による木地の割れや塗膜の剥離剥落など損傷を持った作品が多い。また、担当者の不慣れな取り扱いによって作品を破損する場合もある。日本美術品の保存修復を行うには、材料・技法などの基礎的な理解と基本的な取り扱いや修復に関する実技研修が必要である。本研修は、漆器に関する保存修復の演習を通して、研修参加者に漆に関わる基礎知識を伝えるものである。

概 要

研修日程：2005（平成 17）年 9 月 12 日（月）～9 月 30 日（金）

研修場所：東京文化財研究所修復技術部第 2 修復アトリエ・長野県塩尻市木曾平沢での漆器製作工程の見学

研修対象：漆器の保存と修復を担当する学芸員および保存担当者

研修内容

- < 講 義 > 漆について 加藤 寛（東京文化財研究所）
 漆芸品の見方 高橋 隆博（関西大学）
 彫漆について 松本 達弥（漆芸修復家）
 螺鈿について 田口 義明（漆芸修復家）
 蒔絵について 勝又 智志（漆芸修復家）
 漆芸品修復に関する非破壊調査 三浦 定俊（東京文化財研究所）
 クリーブランド美術館所蔵「猩々漆絵油壺」の修復について 北村 繁（漆芸修復家）
 海外にある漆芸品の保存 永島 明子（京都国立博物館）
 作品の取り扱い・パッキング 岩淵 建夫（東京国立博物館）

< 実 習 >

- 9 月 12 日～16 日 漆の修復について・養生・クリーニング・用具の解説
 塗膜の強化・下地の補強・麦漆による含浸・圧着
 9 月 17 日～19 日 エクスカーション長野県塩尻市木曾平沢で漆掻き・漆クロメ
 木地・漆塗り・蒔絵および赤沢美林見学
 9 月 20 日～29 日 接合部のクリーニングと刻苧・膠による接着・刻苧（2）
 固め・際錆・刻苧揃え・蒔地・研ぎ・固め・修復評価

< 研修参加者（9 名） >

- クリスチャン・ヨルダン（ウイーン民族博物館）
 デルフィニ・メセメスカー（ベルギー国立視覚芸術高等専門学校〔ラ・カンブル〕）
 ヘレン・オリビエ・ラブデイ（パウアー・コレクション）
 イザベル・アロンソ・ゴンザレス（パレンシア文化教育評議会）
 ヤファイ・リウ・ゾウ（カタルーニャ国立美術館）
 ヨルゲン・フンベル（ウオーレス・コレクション）
 フランセスコ・シビット（ステイツベルト博物館）
 パンドジー・ステファニア（ヴァチカン美術館）
 リサ・エリス（ボストン美術館）

< 報告書 > 1 件

『Urushi 2005, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』 東京文化財研究所 185p 06.3

研究組織

加藤 寛、早川 典子、加藤 雅人、染谷 香理、加藤 恵（以上、修復技術部）

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（保 06-05-5/5）

（1）保存担当学芸員研修 期間：2005（平成17）年7月19日（火）～29（金） 参加者 31名

近年博物館・美術館の数が増加すると共にその施設が近代化し、燻蒸室、保存・修理などの保存に関する設備が整備されて保存部門を担当する職員が配置されつつある。しかし、これらの職員が保存科学の知識や技術を修得しようとしても適当な学習の場がないのが現状である。そのために博物館、美術館などの学芸員の保存担当者を対象に、文化財の科学的保存に関する基本的な知識及び技術について研修を行い、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、第22回研修会を開催した。

7月19日（火）

保存科学	総論		石崎武志
保存環境	各論	温湿度	犬塚将英
保存環境	実習	温湿度測定機器の取扱い	犬塚将英・吉田直人

7月20日（水）

生物被害	概論		木川りか
生物被害	各論	文化財害虫	山野勝次・木川りか
生物被害	実習	文化財害虫同定	山野勝次・木川りか
保存環境	各論	光と劣化・照度基準	吉田直人

7月21日（木）

保存環境	各論	文化財公開施設的设计	齊藤孝正（文化庁）
保存環境	各論	室内汚染	佐野千絵
保存環境（実習）		室内汚染の測定法と環境調査	吉田直人・犬塚将英
環境調査実習1			石崎武志・佐野千絵・吉田直人・犬塚将英

7月22日（金）

環境調査実習1（報告）			石崎武志・佐野千絵・吉田直人・犬塚将英
温湿度実習解説			石崎武志・犬塚将英

7月25日（月）

生物被害	各論	生物防除法	木川りか
生物被害（実習）		殺虫処置	木川りか
環境調査実習2 ケーススタディ			石崎武志・佐野千絵・木川りか・吉田直人・犬塚将英

7月26日（火）

劣化と保存	各論	日本画	増田勝彦（昭和女子大学）
劣化と保存	各論	紙	増田勝彦
調査手法	各論	構造調査	三浦定俊
ケーススタディ報告			石崎武志・佐野千絵・木川りか・吉田直人・犬塚将英

7月27日（水）

劣化と保存	各論	考古資料	青木繁夫
劣化と保存	各論	修復材料	早川典子
生物被害	各論	漆工品	加藤寛
生物被害	各論	カビ	木川りか
生物被害	実習	カビの除去	山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）
			木川りか

7月28日（木）

劣化と保存	各論	油彩画	歌田眞介（東京芸術大学名誉教授）
劣化と保存	各論	材質調査（無機物）	早川泰弘

劣化と保存 各論	材質調査(有機物)	吉田直人
劣化と保存 各論	写真	荒井宏子
劣化と保存 各論	大気汚染の金属への影響	早川泰弘
7月29日(金)		
劣化と保存 各論	遺跡と水	石崎武志
博物館の設備	防災・防犯	三浦定俊

研修参加者名

伊藤 信二 井原 真子 唐澤 昌宏 河西 珠実 久保 恭子 熊本 浩藏 齋 藤 曜 鈴木 浩平 瀬谷 貴之
 高岩 俊文 津屋 修 遠山 元浩 中島 幸子 中野 裕子 長谷川 伸 服部 武 花井 久穂 日野 幸治
 平野 到 深港 恭子 布施 慶子 光岡 幸治 三谷 涉 宮下 修 村田 大輔 本橋 弥生 山城 勇人
 横内 裕人 米野 元則 李 須恵 渡邊 美保

所属

稲沢市菟須記念美術館	茨城県陶芸美術館	指宿白水館ギャラリー	神奈川県立金沢文庫
金沢21世紀美術館	君津市立久留里城址資料館	久米島自然文化センター	久能山東照宮博物館
群馬県立館林美術館	国立新美術館設立準備室	国立民族学博物館	埼玉県立近代美術館
さいたま文学館	財団法人高麗美術館	財団法人彫刻の森美術館	
財団法人日本美術刀剣保存協会		財団法人平山郁夫シルクロード美術館	
坂城町鉄の展示館	田辺市立美術館	東京国立近代美術館工芸館	
東大寺図書館	長野県信濃美術館	新潟市歴史博物館	博物館明治村
光記念館	文化庁文化財部美術学芸課	北海道立旭川美術館	MIHO MUSEUM
山口県立萩美術館・浦上記念館		遊行寺宝物館	和鋼博物館

(2) 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修、2005(平成17)年5月16日、於：東京文化財研究所、参加者104名

1981(昭和56)年より毎年、当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修の修了者数は400人を超えた。修了生の尽力によって、収蔵・展示環境は大きく改善し、またそのための知識も広く認識されるに至った。しかし、この間にも、科学の進歩とともに、館内環境改善のための技術は発展し続けている。さらに、2004(平成16)年末の臭化メチル全廃を機に、IPM(総合的生物管理)による予防を中心とした生物被害対策が求められている。このような時代の進展に伴い、従来とは異なる知識が学芸員に要求されている。本研修では、保存担当学芸員研修終了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持つことを目的に、再研修を行おうとするものである。

プログラム・講師

博物館内大気環境の調査法	佐野千絵
展示ケース気密性の調査法	犬塚将英
臭化メチル全廃後の生物被害対策	木川りか

連携大学院教育 東京芸術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）（共）

1995（平成7）年4月より東京芸術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成っている。各講座3名ずつ研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

連携教員および主たる担当授業

保存環境学講座

- 連携教授 三浦定俊（協力調整官）
- 連携教授 石崎武志（保存科学部長）
- 連携助教授 木川りか（保存科学部主任研究官）

修復材料学講座

- 連携教授 青木繁夫（国際文化財保存修復協力センター長）
- 連携教授 加藤 寛（修復技術部長）
- 連携助教授 早川泰弘（保存科学部化学研究室長）

- 客員教授 鈴木規夫（東京文化財研究所長）
- 非常勤講師 大野 彩（保存科学部協力研究員）
- 助 手 松島朝秀

開設講座と主たる担当教員

- 保存環境計画論（前期） 三浦定俊 連携教授
- 保存環境学特論（後期） 石崎武志 連携教授・木川りか 連携助教授
- 修復計画論（後期） 青木繁夫 連携教授
- 修復材料学特論（前期） 加藤 寛 連携教授・早川泰弘 連携助教授
- 修復材料学演習（前期） 今期は開講せず

文化財保存学演習

- 2005（平成17）年4月26日 「X線透過撮影法・蛍光X線分析による文化財調査」（於：東京文化財研究所）
三浦定俊 連携教授、早川泰弘 連携助教授



三浦定俊教員による保存環境計画論の講義



青木繁夫教員による修復計画論の講義

博物館学実習（ 美 15-05-5/5 ）

画家黒田清輝の作品、資料を所蔵・展示する黒田記念館を担当管理する美術部では、博物館学教育に資するため、毎年博物館学実習を開催している。平成 17 年度は下記の日程で行われた。

第 1 日	2005（平成 17）年 8 月 29 日（月）	
10:00～10:30	オリエンテーション	美術部・塩谷 純
10:30～12:00	東京文化財研究所所蔵の美術資料	美術部・塩谷 純
13:00～17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 2 日	2005（平成 17）年 8 月 30 日（火）	
10:00～12:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
13:30～14:30	現代美術資料について	現代美術資料センター・笹木繁男
14:00～17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 3 日	2005（平成 17）年 8 月 31 日（水）	
10:00～12:00	展示について	美術部黒田記念近代現代美術研究室・田中 淳
13:00～15:00	美術品の調査について	美術部・中野照男
15:00～17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 4 日	2005（平成 17）年 9 月 1 日（木）	
10:00～11:00	文化財保存について	保存科学部生物化学研究室・佐野千絵
11:00～12:00	文化財の修復について	修復技術部・加藤 寛
13:00～14:00	修復アトリエ見学	
14:00～17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 5 日	2005（平成 17）年 9 月 2 日（金）	
10:00～11:00	美術史学研究と情報処理	協力調整官 情報調整室・綿田 稔
11:00～12:00	美術史研究と光学的画像	美術部・津田徹英
13:00～17:00	仮想展覧会企画案発表	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 6 日	2005（平成 17）年 9 月 3 日（土）	
全日	展覧会見学とまとめ	

平成 17 年度は、6 大学から 12 名の実習生を受け入れ、実習生にアンケートを実施し、11 名から回収した。実習内容についての回答は「大変満足した」が 10 名、「おおむね満足だった」が 1 名であり、回答をした実習生全員が満足感を得たことがわかる。実習生の感想は以下の通り。

「書庫や修復アトリエや講義など東京文化財研究所ならではのものばかりで、大変貴重な経験をさせていただきました。」

「研究所の様々なセクションの方々にお仕事内容などを伺い、とても勉強になりました。今後は、資料室を活用していきたいと思います。」

「働いている方皆さんが素敵な方達ばかりで、とても心地良かったですし、教え方も上手で、『さすが』という感じでした。もっともっとお話を聞きたいなあと思う実習内容でした。」

博物館・美術館等の環境調査と援助・助言（保 13-05-4/4）

国宝・重要文化財などの指定品および東京国立博物館収蔵資料の借用に関して館内環境調査を行い、報告書を作成・提出した。

栃木	那須塩原市那須野が原博物館		八幡市立松花堂美術館
東京	東京美術倶楽部		財団法人泉屋博古館
石川	金沢 21 世紀美術館	兵庫	兵庫陶芸美術館
福井	敦賀市立博物館	奈良	財団法人松柏美術館
山梨	山梨県立博物館	島根	島根県立美術館
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館		荒神谷博物館
	光記念館	香川	香川県立東山魁偉せとうち美術館
愛知	豊橋市二川宿本陣資料館	福岡	九州国立博物館
三重	松阪市文化財センター「はにわ館」		北九州市立自然史・歴史博物館いのちのたび博物館
京都	細見美術館	長崎	長崎歴史文化博物館

現地調査は三井記念美術館、金沢 21 世紀美術館、高岡市美術館、静岡県立美術館、京都市元離宮二条城、月輪寺、奥田元宗・小由女記念美術館、長崎歴史文化博物館、沖縄県立博物館の 9 館。

また北海道立近代美術館など、全国 134 館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。これらの館については各館ごとに環境調査ファイルを作成して調査を行っている。

北海道	北海道立近代美術館	東京	東京都立中央図書館
青森	青森県立美術館		台東区立一葉記念館
岩手	花巻市博物館		世田谷区立郷土資料館
秋田	秋田市立千秋美術館		田端文士村記念館
福島	福島県文化財センター白河館		杉野学園衣装博物館
	若松城天守閣郷土博物館		海蔵寺
茨城	国土地理院地図と測量の科学館		谷保天満宮
	茨城県立近代美術館		明治神宮文化館宝物展示室
	土浦市立博物館		明治神宮外苑聖徳記念絵画館
栃木	那須塩原市那須野が原博物館		昭和天皇記念館
	芳賀町郷土資料館		三井記念美術館
	日光山輪王寺宝物館		サントリー美術館
群馬	高崎市観音塚考古資料館		泉屋博古館分館
	藤岡歴史館（藤岡市埋蔵文化財収蔵庫）		東京美術倶楽部
	東村立富弘美術館		出光美術館
埼玉	埼玉県立博物館		三菱一号館（仮）
	埼玉県立文学館		東京大学経済学部図書館
	寄居町埋蔵文化財センター鉢形城資料館	神奈川	神奈川県立近代美術館
千葉	松戸市戸定歴史館		神奈川県立金沢文庫
	千葉県立関宿城博物館		横浜市民ギャラリーあざみ野
	市川市東山魁夷記念館（仮）		横浜市美術館
	城西国際大学水田美術館		川崎市立岡本太郎美術館
東京	国立新美術館		横須賀市美術館
	国文学研究資料館		三溪園保勝会三溪記念館

新潟	新潟県立万代島美術館 新潟市歴史博物館 新潟市會津八一記念館 小林古径記念美術館	大阪	桂文化財修理工房 国立国際美術館 高槻市しろあと歴史博物館 大阪歴史博物館 関西大学博物館
富山	高岡市美術館	兵庫	兵庫県立陶芸館 小野市立好古館 姫路市埋蔵文化財センター 朝来市埋蔵文化財センター たつの市立新宮歴史民俗資料館 大阪青山歴史文学博物館 玄武洞ミュージアム
石川	金沢 21 世紀美術館	奈良	法隆寺宝物殿 松柏美術館
福井	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 福井市美術館 敦賀市立博物館 大飯町郷土資料館	和歌山	和歌山県立近代美術館飯田市美術館 田辺市南方熊楠顕彰館
山梨	山梨県立博物館	島根	島根県立石見美術館 島根県立古代出雲歴史博物館 荒神谷資料館
長野	長野県信濃美術館 長野県歴史博物館 浅間縄文ミュージアム 茅野市美術館 松本市美術館 東御市梅野記念絵画館	岡山	岡山市デジタルミュージアム
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館 光記念館	広島	広島大学 奥田元宗・小由女記念美術館
静岡	静岡県立美術館 財団法人佐野美術館	山口	山口県立山口美術館 下関市立考古博物館 毛利博物館
愛知	名古屋市蓬左文庫 豊川市二川宿本陣資料館 安城市歴史博物館市民ギャラリー 一宮市三岸節子記念美術館	香川	香川県立東山魁夷せとうち美術館
三重	三重県熊野古道センター 松阪市文化財センター「はにわ館」 朝日町歴史博物館 松浦武四郎記念館 大黒屋光太夫記念館 財団法人石水会館石水博物館	愛媛	松野町目黒ふるさと館 八幡浜市市民ギャラリー
滋賀	滋賀県立琵琶湖博物館 彦根城博物館 向源寺文化財保存庫 財団法人佐川美術館	福岡	九州国立博物館 北九州市立自然史・歴史博物館、のちのたび博物館 承天寺 福岡市美術館
京都	京都市元離宮二条城 宇治市源氏物語ミュージアム 八幡市立松花堂美術館 月輪寺 佛教大学アジア宗教文化情報研究所 大谷大学博物館 龍谷大学 財団法人細見美術財団細見美術館 財団法人泉屋博古館 京都服飾文化研究財団	佐賀	佐賀県立名護屋城博物館
		長崎	長崎県新美術館 長崎県歴史文化博物館
		熊本	熊本県立美術館
		大分	大分県立先哲史料館 大分市立美術館
		鹿児島	上野原縄文の森展示館 鹿児島県奄美パーク田中一村記念美術館
		沖縄	沖縄県立博物館新館 那覇市歴史資料室 海洋博覧会記念首里城公園管理センター

文化財の材質に関する調査と援助・助言（保）

（1）文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を科学的に調査し、化学組成や化学的構造を明らかにした。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。

（資料）	（依頼者）
金属製品 2 件	文化庁
日本画 2 件	東京芸術大学
柱絵	東京芸術大学
日本画 3 件	三の丸尚蔵館
染織品	女子美術大学
絵画	出光美術館
木彫品	文化庁
板壁絵	平等院
金属製品 2 件	埼玉県埋蔵文化財事業団

（2）X線透視撮影による構造調査

	資料名	所蔵者（依頼者）
絵画	油絵	ポーラ美術館
彫刻	仏像（木彫）	東京国立博物館
工芸品	漆器	沖縄県浦添市立美術館
	漆器	沖縄県立博物館
	漆器	（財）沖縄県海洋博覧会記念公園管理財団
	漆器	サントリー美術館
	刀剣	日本美術刀剣保存協会
物理実験	漆器（蒔絵鼓胴）	個人蔵（国立能楽堂）
	石灰・レンガ	ドレスデン工科大学

文化財の修復及び整備に関する調査・助言（修）

- ・三ノ丸尚蔵館蔵「蒔絵文台・硯箱」の修復指導（加藤寛）
桃山時代の高蒔絵に使用されている盛り上げ材料の劣化原因について指導を行った。
- ・奈良国立博物館文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
奈良国立博物館所蔵の工芸品を対象に保存条件に関する指導を行った。
- ・京都国立博物館文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
京都国立博物館所蔵の工芸品を対象に保存条件に関する指導を行った。
- ・石川県立美術館文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
石川県立美術館所蔵の蒔絵飾り箱のクリーニングについての助言を行った。
- ・石川県立輪島漆芸美術館文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
輪島漆芸美術館所蔵の現代漆芸品の保存修復に関する助言を行った。
- ・トヨタコレクションの保存展示に関する指導助言（加藤寛）
トヨタコレクションの保存に関する助言を行った。
- ・江戸東京博物館文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
江戸東京博物館所蔵の川村清雄関係資料の保存に関する助言を行った。

- ・土佐山内家文化財保存修復に関する指導助言（加藤寛）
土佐山内家の十種香箱の修復に関しての助言を行った。
- ・平等院鳳凰堂本堂天蓋の保存修復に関する指導助言（加藤寛・川野邊渉・早川典子）
天蓋の修復方法などに関する指導助言を行った。
- ・金沢城の保存整備に関する指導助言（川野邊渉）
建造物の整備に伴い、鉛瓦の周辺環境への影響評価方法に関する指導助言を行った。
- ・臼杵市所蔵絵地図の保存修復に関する指導助言（川野邊渉）
資料調査とデータ整理および修復方法の指導助言を行った。
- ・照恩寺宝塔（大分県武蔵町）の修復に関する指導助言（川野邊渉）
クリーニングおよび強化処置の指導助言を行った。
- ・加悦鉄道2号機関車の保存修復に関する指導助言（川野邊渉）
錆進行防止と処置方法の指導助言を行った。
- ・二式戦闘機エンジンの保存修復に関する指導助言（川野邊渉）
東京湾で発見された陸軍二式戦闘機「鍾馭」の保存修復処置に関する助言を行った。
- ・陸軍91式戦闘機の保存と活用に関する指導助言（川野邊渉）
胴体部分の保存状態の調査と活用に関する指導助言を行った。
- ・日本銀行本店貴賓室の保存修復に関する指導助言（川野邊渉）
室内調度の劣化状況の調査と環境測定および修復方法の指導助言を行った。
- ・熊野磨崖仏（豊後高田市）の保存整備に関する指導助言（川野邊渉）
藻類と思われる生物繁茂状況の調査と環境測定および防除方法の指導助言を行った。
- ・東京駅の保存修復に関する指導助言（川野邊渉）
東京駅の修復に伴い、RTOのレリーフとドーム内部のレリーフ部分の構造調査と修復方法について指導助言を行った。
- ・史跡原爆ドーム保存技術指導委員会（三浦定俊・川野邊渉）
史跡原爆ドームの保存方策の検討にあたり、修復技術に関する指導助言を行った。
- ・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言（三浦定俊・石崎武志・佐野千絵・木川りか・吉田直人・犬塚将英・川野邊渉・加藤雅人・早川典子・森井順之・青木繁夫）
国宝高松塚古墳壁画の保存修復計画に関する調査助言を行った。
- ・特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言（三浦定俊・石崎武志・佐野千絵・木川りか・吉田直人・犬塚将英・川野邊渉・加藤雅人・早川典子・森井順之・青木繁夫）
特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する調査助言を行った。
- ・重要文化財「京都府行政文書」の調査／保存修復の指導助言（川野邊渉・加藤雅人）
京都府総合資料館において重要文化財「京都府行政文書」の調査および保存修復の指導助言を行った。
- ・沖縄県公文書館所蔵行政資料の調査／保存修復の指導助言（川野邊渉・加藤雅人）
沖縄県公文書館において、行政資料などの調査および保存修復の指導助言を行った。
- ・沖縄県立図書館所蔵行政資料の調査／保存修復の指導助言（川野邊渉・加藤雅人）
沖縄県立図書館において、行政資料などの調査および保存修復の指導助言を行った。
- ・醍醐寺所蔵国宝文殊渡海図修復における表面汚れ除去に関する調査助言（川野邊渉・早川典子）
醍醐寺所蔵国宝文殊渡海図修復における表面汚れ除去に関する調査助言を行った。
- ・厳島神社丹塗柱の塗装劣化原因調査に関する指導助言（川野邊渉・早川典子）
厳島神社において、丹塗柱塗装劣化の原因調査を行った。
- ・重要文化財0.5t及び3tスチームハンマーの修復後処置に関する指導助言（川野邊渉・森井順之）
横須賀市ヴェルニー公園に展示されているスチームハンマー2基について、周辺環境調査およびメンテナンスに関する指導助言を行った。

- ・愛媛県立科学博物館所蔵グレイトフォールズ型転炉の保存修復に関する指導助言（川野邊渉・森井順之）
昨年防錆処理を行ったグレイトフォールズ型転炉の保存環境に関する調査、指導助言を行った。
- ・シーボルトコレクション中の和紙文化財の保存修復に関する調査（加藤雅人）
オランダ国立ライデン民族学博物館所蔵、シーボルトコレクション中の和紙について調査を行った。
- ・パークスコレクション中の和紙文化財の保存修復に関する調査（加藤雅人）
ビクトリア&アルバート博物館所蔵、パークスコレクション中の和紙の調査を行った。
- ・滋賀県民情報室所蔵行政資料の調査／保存修復の指導助言（加藤雅人）
滋賀県民情報室において、行政資料などの調査および保存修復の指導助言を行った。
- ・八幡市ふるさと学習館所蔵行政資料の調査／保存修復の指導助言（加藤雅人）
八幡市ふるさと学習館において、行政資料などの調査および保存修復の指導助言を行った。
- ・女子美術大学にて修復中の染織品の修復材料に関する指導助言（早川典子）
女子美術大学において修復中の染織品に付着していた、以前の修復材料の分析と除去方法に関する調査助言を行った。
- ・神奈川県立歴史博物館所蔵重要美術品絹本着色十六羅漢図の修復に関する指導助言（早川典子）
神奈川県立歴史博物館所蔵重要美術品絹本着色十六羅漢図の表面付着物質に関する調査と、その除去方法に関する助言を行った。
- ・江戸東京博物館「銀座煉瓦街遺構」の保存修復に関する指導助言（朽津信明・早川典子・森井順之）
博物館内で常設展示されている煉瓦壁の劣化原因調査及び修復方法に関する助言を行った。
- ・天然寺（掛川市）ケーズベルト・ヘンミ墓の保存修復に関する指導助言（森井順之）
旧オランダ東インド会社商館長であったケーズベルト・ヘンミの墓石のクリーニング・強化に関する助言を行った。

無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言（芸）

無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の調査・助言を実施した。（宮田繁幸・鎌倉恵子・高桑いづみ・飯島満・俵木悟）

- (1) 文部科学省（教育映画等審査に関して）に対する助言 9件
- (2) 文化庁芸術文化課地域文化振興室に対する助言（文化芸術による創造のまち支援事業に関して） 16件
- (3) 静岡県森町教育委員会に対する助言 1件
- (4) 浜松市立楽器博物館に対する助言 1件
- (5) 横浜能楽等に対する助言 2件
- (6) (財) 伝統文化活性化国民協会に対する助言（伝統文化データベース、ふるさと文化再興事業、伝統文化こども教室関連事業に関して） 14件
- (7) (財) ユネスコアジア文化センターに対する助言 9件
- (8) 国立民族学博物館に対する助言 4件
- (9) 国立劇場に対する助言（劇場賞選考、運営計画、文化デジタルライブラリー関連） 10件
- (10) 全国民俗芸能大会に関する調査・助言 4件
- (11) 全国青年大会郷土芸能の部運営委員会での助言 2件
- (12) 近松研究所に対する助言 2件
- (13) 早稲田大学演劇博物館への助言 4件
- (14) 韓国国立民俗博物館に対する助言 4件

文化財の虫菌害に対する調査指導（保）

文化財の虫・カビ等の被害への対応について問い合わせを受け、指導・助言を行った。（木川りか・佐野千絵・山野勝次・吉田直人・石崎武志・三浦定俊）

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 文化財の虫菌害に対する調査 | 17件 |
| (2) 相談受付件数 | 76件 |

龍門石窟研究院研究員の受け入れ（セ）

目的

東京文化財研究所では、世界の貴重な文化遺産である中国の龍門石窟の保存について、中国・龍門石窟研究院と協力して調査、研究をしているが、その協力事業の中でも、特に龍門石窟研究院の人材育成は極めて重要な課題であるため、若手の研究者を日本に招へいし、石窟の保存修復に関する種々のテーマについて研修を行っている。

研修内容

2005（平成17）年6月から、国際協力機構（JICA）の助成により陳建平研究員の研修を受け入れ、2006（平成18）年2月まで行った。研修においては、龍門石窟の状況と類似した問題を持つ日本国内の遺跡として、鎌倉市の百八やぐら群をフィールドとし、そこで起こっている劣化現象に関して自らの問題意識で解明し、それに対する保存対策を考察していく課程を訓練した。百八やぐら群の中には、降雨と無関係に壁面に濡れが観察されるものが存在するが、そのやぐらの壁面における含水率を周期的に調査することから、濡れの原因を考察した。その結果、岩体表面の含水率変動は、やぐら周辺の絶対湿度の変化と密接に関係しており、絶対湿度が高い時期に壁面は濡れ、低い時期には乾く傾向が認められた。つまりこのやぐらの濡れに対しては、壁面結露が大きく影響を与えていることが考えられた。また、壁面の乾き方と風化状態との関連を検討した結果、乾きやすい部位ほど劣化が進行している傾向が認められた。通常は、石造文化財の保存にとって水の存在は好ましくないものと一概に考えられがちだが、このやぐらのケースのように、乾燥することの方が悪影響を与える場合もあることが明らかにされたことになる。この成果は、やぐらの保存に貢献するとともに、龍門石窟における保存対策を検討する上でも有効と考えられる。得られた成果は関連学会においても発表され、高い評価を得た。また、2005（平成17）年12月には、李心堅研究員および楊剛亮研究員を招き、文化財修復材料の効果の評価法に関する研修も行った。



図1 含水率の調査を行う陳研究員



図2 報告会を行う陳研究員